

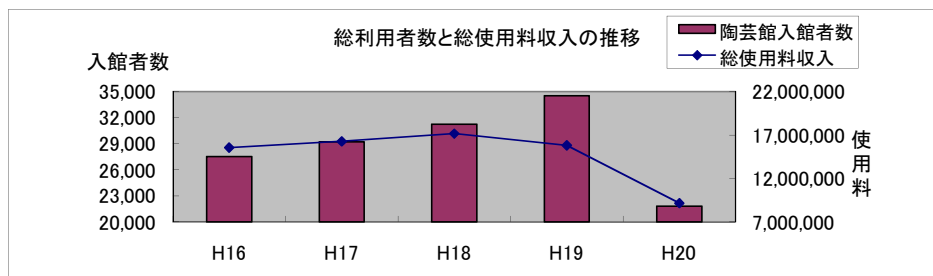
福井県陶芸館(1/2)



所在地	丹生郡越前町小曾原120-61		
設置年月日	昭和46年4月1日		
施設の種類	その他の博物館	施設管理主体	県
設置の目的	越前焼を「見る」(展示資料館)、「作る」(陶芸教室)、「使う」(茶苑)の3つの体験により、越前焼の振興を目的とする。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造2階建 延2,188.65㎡ 資料館・陶芸教室・茶苑・日本庭園(幽石庭)		
職員数	正職員6人、非常勤嘱託5人 アルバイト2人 計13人		

利用状況等 (単位 人)

	H16	H17	H18	H19	H20
陶芸館入館者数	27,512	29,200	31,234	34,501	21,834
(資料館)	6,933	7,818	8,410	8,783	4,668
(陶芸教室)	16,394	17,042	18,413	17,910	9,588
(茶苑)	4,185	4,340	4,411	7,808	7,578



利用状況の推移

近年、利用者は減少傾向にありましたが、利用サービスの向上に努め、平成18年度からの旅行者とのクーポン契約による誘客促進事業の結果、全体で約10%増加しました。平成20年度は、リニューアル工事のため資料館を8月25日から、陶芸教室を9月1日から休館しました。このため、年間を通しての利用者数は減少しましたが、8月末までの利用者数では平成19年度よりも約13%増加しました。

施設の特徴

日本六古窯の一つに数えられる越前焼の振興と古い越前焼の保存を目的として、昭和46年に開館しました。

陶芸館には「見る」資料館、「作る」陶芸教室、「使う」茶苑、「憩う」日本庭園(幽石庭)の4つの施設があります。

資料館

常設展 平安時代末期から現代までの越前焼、水野九右衛門コレクションの越前焼などを展示しています。

特別展 期間中、県内外の優れた陶器をテーマを決めて展示します。

陶芸教室

越前の粘土を使って大人から子どもまで楽しく陶芸を体験できます。

てひねりコース、絵付けコースの体験教室があります。また、電動ろくろコースもあります。

また、各種陶芸講座(体験コース、技術習得コース)を開催しています。

茶苑

越前焼にふれ、実際使って楽しみ、また日本古来の芸術文化である茶道を普及し、越前焼振興と合わせて、地域文化の向上を図るため設置されました。

48畳敷の大広間のある管理棟と正式な茶事ができる越知庵からなっています。

越前焼の茶碗を使った抹茶点出しを行っています。

幽石庭

庭の広さは1886㎡、滝の石組みや池の淵石、庭を彩る草木などすべて福井県産のものを使用しています。

平成20年度の特徴について

- ・特別展「色絵陶磁の美」に843人の入場がありました。
- ・陶芸教室において、通年で実施している「てひねりコース」や「絵付けコース」に加え、「手ひねり講座(基礎講座Ⅰ・Ⅱ)」、「電動ろくろ講座(初級・中級)」、「親子電動ろくろ体験講座」 「古越前を作ろう」などの企画を実施しました。
- ・旅行者とクーポン契約を結び、学校・観光施設等にクーポン券の利用促進のPRを行ったところ、5月の遠足シーズンの利用者が増加しました。

福井県陶芸館(2/2)

行政コスト計算書(平成20年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	69,791	59.3%	96.9%
	退職給与引当金繰入	66	0.0%	-91.7%
	賞与引当金繰入	3,055	2.6%	皆増
	計	72,912	61.9%	101.3%
物にかかるコスト	物件費	28,911	24.6%	76.9%
	維持補修費	3,558	3.0%	194.1%
	減価償却費	12,376	10.5%	388.3%
	計	44,845	38.1%	105.2%
その他	支払利息	0	0.0%	-
	その他	0	0.0%	皆減
	計	0	0.0%	皆減
合計		117,757	100.0%	102.6%
収入	利用料等収入	9,174	7.8%	58.0%
	一般財源	108,583	92.2%	116.3%

バランスシート(平成21年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	722,972	146.5%	固定負債	42,192	88.5%
うち美術品	177,532	100.0%	うち退職手当引当金	42,192	88.5%
うち土地	296,991	100.0%			
投資等	0	-	流動負債	8,587	皆増
流動資産	0	-	純資産	672,193	150.7%
計	722,972	146.5%	計	722,972	146.5%

主な指標 (単位: %, 円/人)

	H20	H19	前年比
県民1人当たり有形固定資産額	890	605	147.1
県民1人当たり将来負担額	52	58	89.5
世代間負担率	93.0	90.3	103.0

バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>平成20年度に、資料館や陶芸教室等リニューアル工事を実施したため、有形固定資産が大幅に増加しました。</p> <p>また、将来負担となる固定負債は退職手当引当金のみですので、県民1人あたりの将来負担額は低い水準になっています。</p> <p>資産のうち美術品の割合が25%をとしています。平安末期から現代にいたる705点の資料を収蔵しています。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>資料館 展覧事業として越前焼を中心とした収蔵資料を展示する常設展とテーマに基づく特別展を開催しています。</p> <p>陶芸教室 大人から子どもまで越前焼(陶芸)を体験できるてひねりコース、絵付けコースがあります。電動ろくろを使って製作する電動ろくろコースもあります。</p> <p>茶苑 48畳敷大広間のある管理棟と茶室《越知庵》からなっています。越前焼の茶碗を使った抹茶点出しや各施設の貸出しを行っています。</p> <p>平成20年度にリニューアル工事を行い、平成21年4月25日にリニューアル開館しました。</p>
今後の課題	<p>近年、来館者数が減少傾向にあることから、民間の企画力や広報力を活かし、陶芸村全体の活性化、陶芸館への集客促進を図ることが必要となっています。</p>
今後の事業方針、取組み内容	<p>平成21年度から25年度までの間、指定管理者において、次のような事業、取り組みを行い誘客促進を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料館において、企画展を年3回以上実施するとともに、季節に応じて常設展の展示入れ替えを行います。また、新たに、土・日曜日などに越前焼窯元による実演を実施します。 陶芸教室について、従来から行っている手ひねり講座や絵付け講座、電動ろくろ講座などに加え、幅広く陶芸体験をできる機会の充実を図ります。 茶苑について、従来の抹茶の点出しに加え、茶苑を通して越前焼に触れて楽しんでいただけるような様々な企画を行います。 旅行会社と連携した旅行ツアーの企画やクーポン券の発行、ふくい南青山291と連動した情報発信、閑散期における小学校・老人ホーム等に出向いての陶芸教室の実施など、県内外で陶芸館および越前焼のPRを行い、集客の促進を図ります。

(単位 円)

